



平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月15日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドール・日レスホールディングス

コード番号 3087 URL <http://www.dnh.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 星野 正則

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 木高 毅史

TEL 03-5459-9178

四半期報告書提出予定日 平成25年1月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第3四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	81,594	0.2	5,568	1.4	5,966	3.4	3,128	41.5
24年2月期第3四半期	81,458	2.8	5,492	△6.6	5,771	△6.7	2,210	△33.3

(注) 包括利益 25年2月期第3四半期 3,737百万円 (94.8%) 24年2月期第3四半期 1,918百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年2月期第3四半期	64.93	—
24年2月期第3四半期	45.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
25年2月期第3四半期	105,003	84,433	80.3	1,749.74
24年2月期	102,845	81,939	79.6	1,698.71

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 84,322百万円 24年2月期 81,863百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00
25年2月期	—	13.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	110,602	2.7	7,712	8.7	8,171	9.3	4,080	62.4	84.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年2月期3Q	50,609,761 株	24年2月期	50,609,761 株
② 期末自己株式数	25年2月期3Q	2,418,393 株	24年2月期	2,418,306 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年2月期3Q	48,191,389 株	24年2月期3Q	49,098,366 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書（第3四半期連結累計期間）	6
四半期連結包括利益計算書（第3四半期連結累計期間）	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、当初は東日本大震災からの復興需要により緩やかな回復基調にありました。しかしながら、欧州債務危機の長期化や近隣諸国との関係悪化が企業業績にも影を落とし、先行きは不透明な状況となりました。

外食業界におきましても、所得環境や雇用不安の懸念から消費者の生活防衛意識は強く、食材価格が高値圏で推移したこと、また、業種を超えた競争などにより、厳しい経営環境となりました。

このような状況下のもとで、当社グループは、「外食業界における日本一のエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で43店舗（直営店舗21店舗、海外6店舗、加盟店舗16店舗）を新規に出店しました。また、顧客の嗜好に合わせて、「星乃珈琲店」のチェーン化を一層推し進めるなど、40店舗の業態変更を行いました。さらに、ブランド価値の向上策、業務の効率化、新規業態の立ち上げ、新メニュー開発など既存事業の強化を行いました。

海外展開においては、シンガポールで「洋麺屋五右衛門」2店舗に加え、「ドールコーヒーショップ」と「星乃珈琲店」を初出店しました。また、韓国でソウルに「洋麺屋五右衛門」1店舗を初出店したほか、フィリピンにおいては、フランチャイズで「洋麺屋五右衛門」1店舗を初出店しました。当第3四半期連結会計期間末時点の海外店舗数は、シンガポール17店舗、中国4店舗、台湾2店舗、韓国1店舗、フィリピン1店舗の計25店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高815億94百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益55億68百万円（前年同期比1.4%増）、経常利益59億66百万円（前年同期比3.4%増）、四半期純利益31億28百万円（前年同期比41.5%増）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

(レストラン事業)

レストラン事業では、アジア各地のグルメを集めたアジア料理専門店の「アジアマルシェ」、正統派インド料理専門店の「タージマハール」、パンケーキ専門店の「ミーズパンケーキ」、オムライスの「ふんわり卵」の新業態を開発するとともに、牛たん専門店の「仙台辺見」の多店舗化、洋麺屋五右衛門の新メニューの導入など既存事業の強化に努めました。また、大阪駅、東京スカイツリーに併設の商業施設であるソラマチ及び成田空港の好立地に「洋麺屋五右衛門」を出店しました。

海外展開については、シンガポールに「洋麺屋五右衛門」2店舗を出店しました。

以上の結果、レストラン事業における売上高は265億46百万円（前年同期比1.7%増）、セグメント利益は27億28百万円（前年同期比14.1%減）となりました。

(カフェ事業)

カフェ事業では、季節に合わせた魅力ある商品作りを継続するとともに、本年度より更に注力している「朝だけセット（モーニング）」、「昼のミラノサンド」、「ティータイムのケーキセット」といった時間帯別のセットメニューや新商品施策がお客様のご支持を頂くなど、既存事業の強化と美味しさの追求に努めました。また、11月下旬からは、クリスマスキャンペーン『DOUTOR'S Hearty Christmas 2012』を開催するなど、積極的な販売活動を展開致しました。

さらに、デザイン性の高い店舗の新規出店や改装などを積極的に展開するなど、ブランド力の強化に努めたことも奏功し、既存店は前期比プラスで堅調に推移致しました。

海外展開については、シンガポールにドールコーヒーショップを初出店し、アセアン市場へのカフェ事業の展開を開始いたしました。

以上の結果、カフェ事業における売上高は218億7百万円（前年同期比0.4%増）、セグメント利益は15億28百万円（前年同期比14.9%減）となりました。

(卸売事業)

一般卸売事業では、洋菓子部門において、大丸東京店に新しいコンセプトのスイーツショップ「Qi_to_wa（きとわ）」をオープンし、新商品「お濃茶ラング・ド・シャ“花のごとく”」の販売を開始するなど、消費者向け商品の開発や販路の拡大に努め、着実に売上を伸ばすことができました。一方、コーヒー部門においては、ドリップコーヒーやコーヒー原料の販路拡大、スーパーなど量販店向け商品の開発や販売の拡大、チルド飲料など定番商品と新商品の継続的な投入に注力し、業容の拡大に努めましたが、昨年の需要増の反動から売上高は減少する結果となりました。

以上の結果、卸売事業における売上高は332億40百万円（前年同期比1.2%減）、セグメント利益は37億75百万円（前年同期比1.8%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ21億57百万円増加の1,050億3百万円となりました。負債は、未払法人税等の減少等により前連結会計年度末と比べ3億36百万円減少し205億69百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により844億33百万円となり前連結会計年度末と比べ24億94百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、所得環境の改善がすぐには見込めないことや消費税増税への懸念から、消費者の節約志向が続くものと思われまます。また、スーパー、コンビニなどとの業種を越えた企業間競争も激しさを増し、当社グループにとっても大変厳しい経営環境が続くものと予想されます。今後においては、景気動向及び天候等の変動要因を考慮しつつも、通期の連結業績見通しにつきましては、平成24年4月13日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,398	27,920
受取手形及び売掛金	5,610	6,244
有価証券	1,500	1,500
商品及び製品	1,151	1,530
仕掛品	106	132
原材料及び貯蔵品	1,157	1,037
繰延税金資産	803	949
その他	2,718	1,976
貸倒引当金	△67	△68
流動資産合計	32,378	41,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,865	17,229
機械装置及び運搬具（純額）	833	754
土地	13,248	13,312
リース資産（純額）	1,990	1,978
その他（純額）	1,083	1,191
有形固定資産合計	35,021	34,465
無形固定資産		
投資その他の資産	1,643	1,424
投資有価証券	8,878	4,214
繰延税金資産	2,149	1,357
敷金及び保証金	21,581	21,098
その他	1,192	1,220
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	33,801	27,890
固定資産合計	70,466	63,780
資産合計	102,845	105,003

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,536	5,988
短期借入金	2,520	2,352
未払法人税等	1,347	356
賞与引当金	955	478
役員賞与引当金	43	41
株主優待引当金	70	—
その他	4,808	5,715
流動負債合計	15,281	14,931
固定負債		
リース債務	745	723
退職給付引当金	1,710	1,807
資産除去債務	737	751
その他	2,430	2,355
固定負債合計	5,624	5,637
負債合計	20,905	20,569
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	25,858	25,858
利益剰余金	58,471	60,305
自己株式	△2,784	△2,784
株主資本合計	82,544	84,379
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△550	△132
繰延ヘッジ損益	△126	11
為替換算調整勘定	△4	64
その他の包括利益累計額合計	△681	△56
少数株主持分	76	111
純資産合計	81,939	84,433
負債純資産合計	102,845	105,003

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
売上高	81,458	81,594
売上原価	33,974	33,296
売上総利益	47,483	48,298
販売費及び一般管理費	41,990	42,729
営業利益	5,492	5,568
営業外収益		
受取利息	245	242
受取配当金	37	38
為替差益	—	73
不動産賃貸料	39	34
その他	58	79
営業外収益合計	381	467
営業外費用		
支払利息	24	19
為替差損	25	—
不動産賃貸費用	26	23
持分法による投資損失	21	21
その他	5	5
営業外費用合計	102	70
経常利益	5,771	5,966
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,309
受取補償金	61	—
その他	0	17
特別利益合計	62	1,326
特別損失		
固定資産除却損	147	42
投資有価証券売却損	—	1,435
投資有価証券評価損	497	21
店舗閉鎖損失	109	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	420	—
減損損失	—	569
災害による損失	103	—
その他	0	—
特別損失合計	1,280	2,068
税金等調整前四半期純利益	4,553	5,224
法人税等	2,345	2,113
少数株主損益調整前四半期純利益	2,208	3,110
少数株主損失(△)	△2	△18
四半期純利益	2,210	3,128

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,208	3,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△235	417
繰延ヘッジ損益	△48	138
為替換算調整勘定	△5	70
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△0
その他の包括利益合計	△289	626
四半期包括利益	1,918	3,737
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,921	3,753
少数株主に係る四半期包括利益	△3	△16

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社を持株会社とする当社グループは、2つの中核事業会社を基礎としたセグメントから構成されており、「レストラン事業」、「カフェ事業」及び「卸売事業」を主な事業セグメントとしております。

「レストラン事業」は、主に直営店におけるレストランチェーン及びベーカリーチェーンを経営しており、食材の仕入れ、製造及び販売までを事業活動として展開しております。

「カフェ事業」は、直営店におけるコーヒーチェーンを経営しており、コーヒー豆の仕入れ、焙煎加工及び店舗における販売までを事業活動として展開しております。

「卸売事業」は、主にフランチャイズシステムによるコーヒーチェーンを経営しており、コーヒー豆の仕入れ、焙煎加工の上、フランチャイズ加盟店への卸売りやロイヤリティ等の収入、また、コンビニエンスストア等へのコーヒー製品の販売を事業活動として展開しております。

各報告セグメントを経営する主な事業会社は以下のとおりです。

レストラン事業	日本レストランシステム㈱、㈱サンメリー、D&Nカフェレストラン㈱他
カフェ事業	㈱ドトールコーヒー他
卸売事業	㈱ドトールコーヒー、D&Nコンフェクショナリー㈱他

II 前第3四半期連結累計期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レストラン 事業	カフェ事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	26,091	21,713	33,652	81,458	—	81,458
セグメント間の内部売上高 又は振替高	117	—	1,050	1,168	△1,168	—
計	26,208	21,713	34,703	82,626	△1,168	81,458
セグメント利益 (又は△セグメント損失)	3,176	1,797	3,845	8,818	△3,325	5,492

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△3,325百万円には、主として親会社及び連結子会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用2,720百万円及びセグメント間取引消去536百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅲ 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レストラン 事業	カフェ事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	26,546	21,807	33,240	81,594	—	81,594
セグメント間の内部売上高 又は振替高	85	—	1,176	1,261	△1,261	—
計	26,632	21,807	34,416	82,855	△1,261	81,594
セグメント利益 (又は△セグメント損失)	2,728	1,528	3,775	8,032	△2,463	5,568

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,463百万円には、主として親会社及び連結子会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用2,733百万円及びセグメント間取引消去343百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」及び「カフェ事業」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「レストラン事業」で339百万円、「カフェ事業」で230百万円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。